

三見小中だより

小中一貫教育校
萩市立三見小中学校
平成29年10月27日発行
文責：校長 宮木 剛

ふるさと学習

毎年恒例となっていますが、三見ふるさと史の会の皆様のご協力で、小学部では、ふるさと学習を行っています。1・2年生は蔵本周辺、3・4年生は眼鏡橋・三見市・バクチの木、5・6年生は浦地区周辺で学習を展開しました。5・6年生は昨年度、手水川地区で学習していますので、隔年で山の暮らしと海の暮らしを比較して学習するようになっています。三見の歴史や自然、暮らしについて学ぶことにより、ふるさとを愛する心を育ててほしいと願っています。



子どもと関わるコツ その3

勉強は何のために！？ 子どもに身につく力

今回は、「家庭学習を定着」するためのコツは「勉強をやりなさい」はあまり効果がなく、「子どもの横に座る」「勉強の成果に目を通す」「学習している時間を気にとめる」等、学習している子どもに関心が向いていることを態度で伝えることが大切になるのではないかと書きました。

今回は、子どもと関わる時の成果について考えてみましょう。子どもの勉強を通してどのような成長を期待するかが少し見えてくることで、各ご家庭での子どもと関わるための意気込みにも変化が出るのではないのでしょうか。

将来、子どもが豊かな生活を送るために勉強が大切なことは言うまでもありません。この勉強で身につく力は大きく二つあると考えられます。一つは、計算する力や漢字等を使って文章を書く力や自然の仕組みを考える力等は国語や算数等で育みます。この力は「学力」と言われ、一般的には成果が目に見えやすく、テストなどで計測しやすいものです。二つ目の力は、一般的には「生きる力」と言われています。これは、授業中や休み時間、掃除、行事活動等学校生活全般を通して育みます。「やり抜く力」「やる気」「粘り強さ」「意志の強さ」等、自分をコントロールする力です。

この中で、定着が難しいのは二つ目の力です。子どもにとっては学習の成果が実感しにくく、大人にとっても少し後回しにしがちになります。しかし、勉強で蓄えた「学力」を将来社会等で発揮するためには、二つ目の力が大切なことは多くの大人が実感しているところです。

このことから、保護者の方等に子どもの家庭学習等に関わっていただくことは重要だと思います。学校と家庭が連携し、子どもに躰やトレーニングのように根気強く、継続的に「自らをコントロールする力」の育成に取り組む必要があると考えます。

10月の様子



11日、クリーン作戦を行いました。縦割り班で各方面に出かけ、日頃お世話になっている地域への恩返しという気持ちを込めて活動しました。



17日、子ども相撲大会に参加しました。多くの観客の皆さんの中で、熱戦が繰り広げられました。



20日、恒例となったふれあい給食を実施しました。今回来られた方は、阿武孝昭さん、浮里史也さん、三元孝之さん、横谷由美子さん、神崎祐樹さんです。給食後、中学生が企画した交流会もありました。

11月行事予定

- 3日(金) 文化の日
- 9日(木) 萩阿武中学校音楽会
(小5・6、中参加 市民館)
- 10日(金) いもほり
- 12日(日) 萩時代まつり
山口陸上競技協会陸上教室
長門市長杯ソフトテニス大会
- 14日(火) 親子料理教室・健康教室
小クラブ活動
- 16日(木) 避難訓練
- 17日(金) 身体測定
進路手続説明会(中3)
- 19日(日) 三見公民館まつり
- 23日(木) 勤労感謝の日
- 24日(金) 中テスト発表
- 27日(月) 租税教室
進路相談会(中3)
- 28日(火) 進路相談会(中3)



24日、人権教育参観日でした。日本財団パラリンピックサポートセンター主催の「あすチャレ! スクール」という事業で、車椅子バスケットボールを体験しながら、障害について考えました。講師の根木慎志さんは、シドニーパラリンピック・車椅子バスケットボール代表のキャプテンをされていた方です。体験も良かったのですが、根木さんのお話がとても良くて、子どもたちも障害についてしっかり考えることができたようです。「足が動かないことが障害ではない」という言葉が印象に残っています。